

利用ニーズに合わせた
移動環境が可能に

デマンド型交通 の導入を進めています

町では、乗り合いタクシー「デマンド型交通」の平成31年3月運行に向けた準備を進めています。デマンド型交通が始まると、利用する皆さんの交通利便性が向上します。ここでは、デマンド型交通についてお知らせします。

公共交通とは？

公共交通とは、鉄道・バス・タクシーなど誰でも乗ることができるとのことです。町内には鉄道（JR東北本線）、路線バス（岩手県交通）、タクシーがあります。その他、1乗車200円で誰でも利用できる「さわやか号（コミュニティバス）」を町が週4日間運行しています。

公共交通の厳しい現状

全国的に公共交通の利用者が減少して、バス路線などが減便もしくは廃止されています。特に地方では路線バスの利用者の減少が著しく、交通事業者の経営状況が悪化して赤字路線を廃止せざるを得ないなど、現状維持が困難な状況となっています。

また、バスやタクシーの運転手不足が深刻な問題となっており、新規路線や増便の対応など、サービスの向上を実施しようとしても運転手がいないため、サービスの低下を余儀なくされているケースが多く発生しています。

このように公共交通サービスの水準が低下すると、結果として利用者

が減少し、さらに公共交通のサービス水準が低下する悪循環になり、地域の公共交通は現在、危機的な状況となっています。

どうしてこうなった？

公共交通が衰退したのは、人口減少や少子高齢化による通勤・通学に使う方の減少などにより、公共交通を利用する人が少なくなったのが一つの要因です。

特に、大きな影響を与えたのが、自家用車の普及です。以前は一家に1台だった自家用車が、現在は家族で一人1台ずつ所有することも珍しくありません。

時代の変化に伴い、移動手段が便利な自家用車へ代わっていったことが公共交通衰退の要因です。

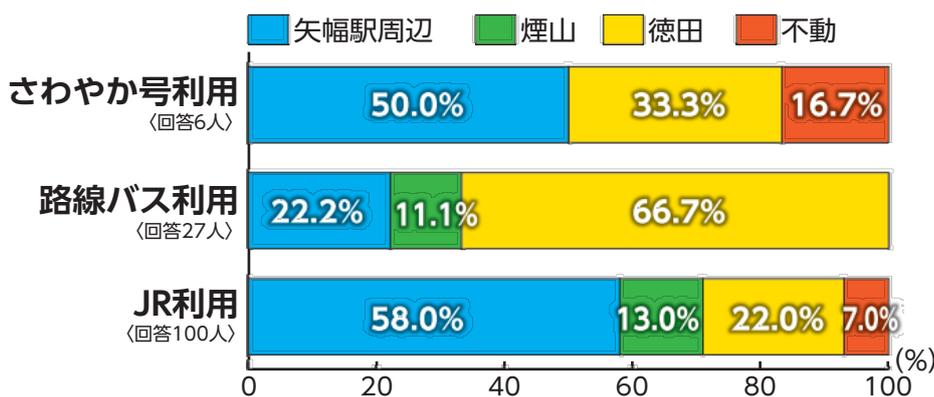
公共交通が抱える課題

現在、公共交通は交通事業者の努力と行政による赤字路線への補助金投入で、維持されている状況にあります。

しかし、これらにも限界があり、近い将来に公共交通機関が無くなってしまいう可能性があります。

その一方で、日本は超高齢社会を迎えています。高齢者が加害者となる交通事故は大きな問題となっています。道路交通法が改正され、高齢運転者の交通安全対策として認知機能検査が強化されて、これから運転

町内公共交通の地区別利用状況



矢巾町の公共交通サービスの現状



デマンド型交通によるメリット

- ①路線バスのバス停から遠く、不便だった地域も利用しやすくなります。
- ②バス車両では通れなかったルートも運行できます（タクシー車両を使用するため）。
- ③利用者の予約に応じて運行するので、効率的な運行が可能となります。

免許の取り消しや自主返納する人が増えるのは確実です。これは、公共交通が本当に必要とされる時代がもうすぐ到来するということを示しています。

このように、公共交通が本当に必要となったときに、地域から公共交通がなくなっているということがないようには、「今後最も難しく、避けられない地域課題の一つ」となっています。

守り育てる公共交通

これまでの公共交通は、交通事業者が中心になって運行してきましたが、これからは町民一人ひとりが公共交通を地域の財産として「守り育てて行く」という意識が必要です。これは交通事業者と行政とともに一体となって地域全体で支えて行くことが求められています。

また、公共交通機関は、一度廃止になると、復活はほぼ不可能となります。将来の最悪な状況を避けるため、最低限移動できる手段を持続的に確保するためには、公共交通に係る危機感を町民全体で共有することが大切です。

加えて、公共交通は単なる移動手段だけではなく、安全・安心な移動手段を提供しつつ、まちづくり、観光、環境、福祉など地域を支える重要な役割も担っています。交通の衰退は地域の衰退につながります。いま一度、地域の公共交通の大切さを考えていきましょう。

町では、公共交通を「守り育てて行く」ために、町にとって望ましい公共交通網のあり方を明確にするマスタープランとして「矢巾町地域公共交通網形成計画」を策定しています。この計画の基本方針や目標の達成を目指して、交通事業者や町民の皆さんと一緒に将来にわたり持続可能で利用しやすい地域公共交通ネットワークの形成に向けて、取り組んでいきます。

その第一弾として、地域公共交通空白地の解消を目指して「デマンド型交通システムの導入（試験運行）」の準備を進めています。試験運行に向けて、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

次のページで町が目指す公共交通について詳しくお知らせします。